

平成30年6月18日現在

機関番号：34506

研究種目：基盤研究(B) (海外学術調査)

研究期間：2014～2017

課題番号：26300039

研究課題名(和文) インドにおける新しいメディア状況と芸能のグローバル化：文化の環流の人類学的研究

研究課題名(英文) New Media Situation in India and Globalization of Indian Performing Arts: An Anthropological Analysis of Cultural Gyre

研究代表者

松川 恭子 (Matsukawa, Kyoko)

甲南大学・文学部・教授

研究者番号：00379223

交付決定額(研究期間全体)：(直接経費) 12,700,000円

研究成果の概要(和文)：インド全体での新しいメディア状況の展開を文献・資料から把握した上で、インド国内の芸能の現状と、隣国ネパール、インド移民の多い東南アジア及び欧米でのインド芸能の受容・展開について、(1) インドの芸能を取りまく新たなメディア状況の展開の把握、(2) 新たなメディアとの結びつきにより生じた芸能の形式の変化と環流の動態の解明、(3) 芸能のグローバル化を支える社会関係の現在の把握、(4) 芸能に表現されるインド社会の今日的価値観の提示という4つの視点から調査を実施し、現状を明らかにした。国際ワークショップでの報告とワークショップの論集(Proceedings)の刊行によりその成果を発表した。

研究成果の概要(英文)：After the grasping of the development of new media situation, we conducted field research on the present state of Indian performing arts in India as well as abroad (Nepal, Canada, UK, Malaysia and Singapore) to clarify the global dynamics of Indian culture. We tried to achieve the following four goals. (1) To comprehend the development of the new media situation in India which surrounds Indian performing arts today, (2) To clarify the changes in the forms of performing arts strengthened by new media situation as well as the dynamics of cultural gyre, (3) To grasp the present state of social relations which are the basis of the globalization of performing arts, (4) To analyze the contemporary values represented in performing arts. The outcome of the research was presented in an international workshop and was published in the proceedings of the workshop.

研究分野：文化人類学

キーワード：インド メディア状況 芸能 グローバル化 環流

1. 研究開始当初の背景

2000年以降の急速なグローバル化は、インド芸能が様々な地域に広がり、変化を起こす新たな契機となった。

だが、研究開始時以前のインド芸能の研究は、イギリス在住南アジア系移民の音楽実践を扱った G.Farrel (2005) のように、インド外、特に欧米のインド移民社会で実践される芸能の変化に注目する傾向にあり、その枠を越えた流れをみせている近年のグローバルなインド芸能の拡大の実状は見見過ごされていた。その一方、2010年頃から、インド系移民によって伝えられたインド起源の宗教・映画・ファッションなどが欧米の消費者に受容され、現地の文化と相互作用をを起こして変化しながら再びインドに戻る「文化の環流」現象に注目する動きが現れた(三尾2011)。

環流現象に着目することにより、西洋起源の市場経済の拡大や合理化の進展がグローバル化の特徴であるとする観点や、グローバルな価値観がローカルな社会に一元的に影響を与えるといった二項対立的な見方を越え、非西洋の地域を起源とし、人・モノ・カネ・情報の重層的な流れとともに生起する文化の動態を捉えることができるが、文化の環流現象を引き起こす要因や、環流が起きる中で生成するナショナリズム等の価値観の衝突をめぐる先行研究の蓄積はまだ少ないという状況があった。

また、インド文化が世界に広がる際に重要な役割を担う新しいメディア状況(衛星放送、携帯電話、インターネット等の複合)と環流現象との関係の解明も途上にあった。

2. 研究の目的

本研究は、芸能に焦点を当てることで(1)インド社会の2000年以降の構造・価値観の変化を捉え、(2)西洋発の文化が世界中に拡大するという従来のグローバル化・モデルとは異なる、文化の環流現象のモデル化を目指すものである。環流現象とは、国境を越える過程で変化し、様々な地域への拡大と自社会への回帰を見せる、近年のグローバルなインド文化の動態である。本研究課題では、演劇、舞踊、音楽という芸能が衛星放送、携帯電話、インターネット等からなる新しいメディア状況と結びついて世界各地に広がるとともに、インドに回帰することで生じるインド社会への影響を明らかにすることをめざした。

3. 研究の方法

本研究は、研究組織の構成員8名による(a)資料収集、(b)現地調査により研究を進めた(2014年度は研究分担者3名、研究協力者4名、2015年度は研究分担者6名、研究協力者1名、2016・7年度は研究分担者7名)。具体的には以下の4点に焦点を合わせ、研究を

実施した。

- (1) インドの芸能を取りまく新たなメディア状況の展開の把握 = <マクロなメディア状況>
- (2) 新たなメディアとの結びつきにより生じた芸能の形式の変化と環流の動態の解明 = <形式の変容>
- (3) 芸能のグローバル化を支える社会関係の現在の把握 = <芸能をめぐる人的紐帯>
- (4) 芸能に表現されるインド社会の今日的価値観の提示 = <今日的価値観>

研究組織の構成員8名の調査テーマ・調査地は以下のとおりである(役割、所属は課題終了時の2018年3月時点)。インド国内は北部(ラージャスターン州、ヒマチャル・プラデーシュ州ダラムサラ)、中部(マハラシュトラ州、ゴア州)、南部(タミル・ナードゥ州チェンナイ)で、インド国外は隣国のネパール、欧米(イギリス、フランス、カナダ)、インド系移民が多いマレーシア・シンガポールで調査を実施した(インド国内の位置については図1を参照のこと)。

表1: 研究組織・調査地・テーマ

名前	調査地	テーマ
松川恭子 (甲南大学) 代表者	インド(ゴア州)	ゴア州の現地語コーンカー語映画産業の発展
飯田玲子 (京都大学) 分担者	インド(マハラシュトラ州)、イギリス	マハラシュトラ州の民俗芸能タマーチャーのVCD制作・流通にみる芸能の変容
岩谷彩子 (京都大学) 分担者	インド(ラージャスターン州)、フランス	芸能民カールペリヤーの踊りの発展とグローバルな受容
小尾淳 (大東文化大学) 分担者	インド(タミル・ナードゥ州チェンナイ)、カナダ(バンクーバー)	キールタンの欧米における受容にみるナーマ・サンキールタナ(唱名)の伝統のグローバル化
古賀万由里 (開智国際大学) 分担者	マレーシア	マレーシアにおけるインド舞踊の受容と展開
小西公大 (東京学芸大学) 分担者	インド(ラージャスターン州)	携帯電話による音楽の消費とラージャスターン社会のセクシャリティの変容
竹村嘉晃 (国立民族学博物館) 分担者	インド(タミル・ナードゥ州チェンナイ)、シンガポール	シンガポールにおけるインド舞踊の受容と展開
山本達也 (静岡大学) 分担者	インド(ダラムサラ)、ネパール	チベット難民ポップ・ミュージックにみる音楽のグローバル化の重層的様相

インド全体での新しいメディア状況の展開を文献・資料から把握した上で、研究組織の構成員が 10 年以上研究を実施してきたインド国内の調査地での芸能の現状と、インドの隣国ネパール、インド移民が数多くわたった東南アジア及び欧米でのインド芸能の受容・展開について先述した 4 つの視点から調査を実施した。インド国内で起こってきた都市における新興中間層の台頭や東南アジアの各国と移民社会の関係の変化に着目し、主に芸能に関わる人々にインタビューを行った。彼らが自らの帰属(カースト、宗教、家族、ジェンダー等)をどうとらえているのか、芸能の形式の変化に表出するインド社会の価値観の変化、芸能の実践のされ方によって環流する芸能、そうでない芸能の違いが出るかにも注意を払った。

図 1 インド国内の調査地



#### 4. 研究成果

(1)~(4)については、以下が明らかになった。

(1) インドの芸能を取りまく新たなメディア状況の展開の把握

インドにおける携帯電話契約者数は 2016 年に 10 億を超えた。世界の潮流に合わせ、スマートフォン利用者の数も急速に増加している。The Indian Express 紙(2017 年 10 月 16 日)によれば、インドのスマートフォン・ユーザーの数は 2018 年に 5 億を超えると予想されており、スマートフォンでインターネットにアクセスするのが通常という状況が生まれている。

(2) 新たなメディアとの結びつきにより生じた芸能の形式の変化と環流の動態の解明

携帯電話・スマートフォンの普及にとともに、インド国内での芸能との関わりが大きく変化し、「消費」の側面が強くなっている。複製メディア技術の発展により、人々はパフ

ォーマンスの場に出向くことなく、気軽に芸能を楽しむことができるようになった。1990 年代から音楽のカセットテープが普及し、1990 年代後半から 2000 年代にかけて演劇や舞踊も VCD(ビデオ CD)により鑑賞が広く可能になった。2010 年代に入ると、携帯電話端末に電子ファイルをダウンロードすることで、芸能を場所を問わずに個人的に視聴する環境が生まれた。ただし、この変化がインド全域で一貫的に起こっているかというところではなく、飯田が調査したマハーラーシュトラ州プネーのような都市部であっても、いまだ VCD が消費されている。また、若者が携帯電話端末により芸能を消費する傾向があるというように、世代による違いがわかることもわかった。欧米や東南アジアのインド芸能の受容に関しては、YouTube や Facebook による消費に加え、Skype を使ってインドとつながり、レッスンを受けるのが珍しくないという現状が明らかになった。

芸能の実践者たちの新しいメディアとの関係については、松川が調査したゴア州のコーンカーニ語映画業界では、YouTube や Facebook を駆使した宣伝が行われているとともに、グローバルに進展するデジタル化の技術革新(Mac コンピューターによる編集、海賊版に対抗するデジタル技術の開発)を取り入れた制作・上映が行われていることが明らかになった。海賊版については、山本が調査したチベット難民のポップ・ミュージシャンたちも、CD が売れない中、YouTube によりチベット難民社会の中で自らの音楽のファンを開拓し、ライブ・パフォーマンスで生計を立てようとしていることがわかった。

上述したように、芸能の Skype レッスンが普及しているが、インターネットを通じた関係だけでなく、古賀が調査したマレーシアや竹村が調査したシンガポールのインド舞踊家が「本場」であるインドで公演を行う、インド人の舞踊家がマレーシアやシンガポールの芸能学校で教育を行うという人の往来もあることがわかった。

(3) 芸能のグローバル化を支える社会関係の現在の把握

岩谷が調査したラージャスターン州のカールベリヤーの舞踊は、UNESCO の無形文化遺産として登録されており、欧米ではジプシー・ダンスとしても知られている。カールベリヤーのコミュニティは元々蛇使いを生業としていたが、1970 年代の動物愛護法の施行など、生存環境の変化により、女性のダンサーを前面に押し出した舞踊と音楽の形式を生み出した。「決まった型の不在」と「ジプシー」と結びついたインドに留まらない異国風のイメージ構築が人気を得、フランスをはじめとする欧米で受容され、カールベリヤーの舞踊家がラージャスターン州で欧米や日本からの生徒を教えるコースを開講するといった環流現象が生じている。同じく芸

能のグローバル化として捉えられる、小尾が調査したカナダのキールタン（唱名）の実践については、インド起源ではあるものの、インド移民社会との結びつきは弱く、ISKCON（クリシュナ意識国際協会）の活動の一環としての意味合いが大きく、インドに回帰する環流が起きているとはいいいにくい。

カールベリヤーの舞踊は1990年代以降と比較的新しく人気を得た舞踊であり、様々な背景を持つ人々が参入できるのに対し、バラタナティヤムは20世紀前半にルクミニ・デヴィが西洋的な枠組みからインド舞踊を再構築したものであるものの、インド古典舞踊としての地位を確立し、師匠・弟子の関係を通じて技法が伝承される。これは、インド古典音楽も同様である。グローバル化と芸能の関係については、2000年代以降の変化を独立して捉えるのではなく、イギリス植民地時代からの連続的な流れの中で考察を行っていく必要があることが示唆される。

インドの社会関係において代表的なカーストについても芸能を取り巻く現場で変化がみられる。飯田が調査したマハーラーシュトラ州の民俗芸能タマーシャーのVCD制作現場にはカースト関係で下層に位置するダリト（指定カースト）の人々が参入している。大きな設備投資を必要としないこと、タマーシャーの実践者には様々なカースト集団出身者が混在しており、特定のカースト関係に縛られないネットワークの中でビジネスが可能であることがその理由として考えられる。

#### (4) 芸能に表現されるインド社会の今日的価値観の提示

先に述べたとおり、近年の芸能表現の変容には、中間層の台頭や地域社会に独自のセクシャリティの表現をみることができる。例えば、飯田が調査したマハーラーシュトラ州の民俗芸能タマーシャーの場合、VCDやYouTubeで鑑賞する中間層の受容により、村落部での男性が好む卑猥なものから洗練された形式に舞踊が変化した。その一方、伝統的な価値観が消失しているわけではなく、小西は、携帯端末でのラージャスターン州の民俗音楽消費を事例に、地域社会の伝統的な男女関係を基盤としたセクシャリティ観が新しいメディアでも同様に表現されていることを明らかにした。

以上から、環流現象は全ての芸能において起こるというわけではないことがわかった。カールベリヤーの舞踊のように、インドにおける社会関係が強固ではない、型が曖昧で形式に柔軟性があるという条件が必要であることがわかった。メディアと芸能の関係については、身体によるパフォーマンスという性格をより強く持ち、技術の継承に身体に振れる教授法が求められる舞踊の方が、音楽に比べるとSkypeを通じたレッスンに馴染みに

くということが明らかになり、インド芸能からメディアと環流現象について読み解く際に、「知と技の継承」の側面の考察を更に深めていく必要があることがわかった。

本研究課題のまとめとして、2018年1月20日・21日に京都大学にて国際ワークショップ Globalization of Indian Performing Arts in New Media Situation: Dynamics of Cultural Gyre を開催した。研究組織の構成員7名に加え、アメリカからSkypeによる古典音楽教授の専門家であるDr. Rohan Krishnamurthy (RohanRhythm/ Ohlone College) と、イギリスからインド近代舞踊の専門家であるDr. Prarthana Purkayastha (Royal Holloway, University of London) を招聘し、研究成果の報告と討論を行った。国際ワークショップの報告及びワークショップに不参加であった構成員1名の論考を収録した論集 *International Workshop Globalization of Indian Performing Arts in New Media Situation: Dynamics of Cultural Gyre Workshop Proceedings* を2018年3月に刊行した。

#### 引用文献

Farrell, G. with J. Bhowmick, and G. Welch. 2005. "South Asian Music in Britain." In *Diasporas and Interculturalism in Asian Performing Arts: Translating Tradition*, edited by Hae-kyung Um, 104-128. London; New York: RoutledgeCurzon.

三尾稔『『環流』する『インド文化』 グローバル化する地域文化への視点』『民博通信』132: 2-7.

#### 5. 主な発表論文等

(研究代表者、研究分担者及び連携研究者には下線)

〔雑誌論文〕(計 16件)

山本達也、マントラを商品化する チベット難民社会を取りまくワールド・ミュージック化の試み、宗教と社会、査読有、20巻、2014、33-46  
DOI :  
[https://doi.org/10.20594/religionandsociety.20.0\\_33](https://doi.org/10.20594/religionandsociety.20.0_33)

飯田玲子、民俗芸能から都市文化へ インド・マハーラーシュトラにおけるタマーシャー劇の現代の変容、マハーラーシュトラ、査読有、12号、2015、93-122

小尾淳、欧米におけるインドの宗教歌謡「キールタン」の受容と展開 音楽、ヨーガ、スピリチュアリティ、大東アジア学論集、15巻、2015、50-64

KONISHI, Kodai, Phantasm in Lime: The Permeating 'Modernity' in Manganiyar Community of Rajasthan, *International*

山本達也、かたちを変えていく歌詞 チベット難民社会におけるチベタン・ポップの作詞実践を事例に、国立民族学博物館研究報告、40巻2号、2015、311-347

飯田玲子、視覚メディアのポリテクスカメラによってもたらされる新しい繋がり排除、CIAS Discussion Paper Series 66 声を繋ぎ、掘り起こす 多声化社会の葛藤とメディア、2016、17-23

小尾淳、南インドの「バーガヴァタル」にかんする一考察 19世紀末から20世紀の音楽界に焦点をあてて、大東アジア学論集、16巻、2016、53-68

竹村嘉晃、「伝統」を支える多元的位相 シンガポールにおけるインド舞踊の発展と国家、舞踊学、38巻、2016、121-138

竹村嘉晃、芸能のグローバルな伝播・発展に関する研究動向、民博通信、155号、2016、25

⑩ 飯田玲子、タマシヤの芸の継承と再生産 - タマシヤとは誰のことか?、RINDAS プロシーディングス: インド・マハラシュトラにおけるダリトの実像 その社会的・歴史的多様性、2017、68-80

山本達也、近代経験のアリーナとしての歌手の身体 チベタン・ポップ制作に見る「屈折する近代」と嗜好品の動態性、嗜好品文化研究、査読有、2巻、2017、40-48

岩谷彩子、序 グローバリゼーションと公共空間の変容、文化人類学、査読有、82巻2号、2017、151-162

DOI:  
[https://doi.org/10.14890/jjcanth.82.2\\_151](https://doi.org/10.14890/jjcanth.82.2_151)

岩谷彩子、古着のフローが生み出す公共空間 インド、アフマダーバードの都市開発の事例より、文化人類学、査読有、82巻2号、2017、213-232

DOI:  
[https://doi.org/10.14890/jjcanth.82.2\\_213](https://doi.org/10.14890/jjcanth.82.2_213)

YAMAMOTO, Tatsuya, Lyrics Matter: Reconsidering Agency in the Discourses and Practices of Tibetan Pop Music among Tibetan Refugees, Revue d'Etudes Tibétaines, No. 40, 2017, 126-152

小尾淳、グローバル時代における宗教音楽の変容に関する一考察: ゴスペル音楽とキールタンの比較から、大東文化大学紀要、56巻、2018、91-110

小西公大、レモンをめぐるファンタズム: インド周縁文化の「ローカリティ」をめぐる人類学的試論、東京学芸大学紀要人文社

〔学会発表〕(計 53件)  
ページ数の制限のため、詳細は割愛する。

〔図書〕(計 17件)

杉本良男、須藤健一、朝倉敏夫、池谷和信、宇田川妙子、櫻永真佐夫、岸上伸啓、佐々木史郎、庄司博史、鈴木紀、関雄二、寺田吉孝、野林厚志、信田敏宏、平井京之介、三尾稔、南真木人、森明子、岩谷彩子他、丸善出版、世界民族百科事典、2014、789(72-73)

椎野若菜、白石壮一郎、関口雄祐、竹ノ下祐二、福井幸太郎、的場澄人、澤柿教伸、丹羽朋子、小西公大、門田岳久、杉本浄、梅屋潔、大門碧、稲津秀樹 他、古今書院、フィールドに入る、2014、244(137-157)

細田尚美、石井正子、Rima Sabban、嶋田ミカ、N. Janardhan、竹村嘉晃、辻上奈美江、福田安志、堀抜功二、松尾昌樹、松川恭子、渡邊暁子、明石書店、湾岸アラブ諸国における移民労働者 「多外国人国家」の出現と生活実態、2014、300(185-205、229-250)

粟屋利江、井坂理穂、井上貴子、舟橋健太、鈴木真弥、桂紹隆、小西公大、杉本浄、喜多村百合、菅野美佐子、八木祐子、小松久恵、萩田博、石田英明、萬宮健策 他、東京大学出版会、現代インド 5 周縁からの声、2015、344(103-125)

鈴木正崇、脇田道子、宮坂清、外川昌彦、澁谷俊樹、古賀万由里、久保田滋子、高田峰夫、床呂郁哉、中野麻衣子、陶冶、藤野陽平、本谷裕子、禪野美帆、中野紀和、田中正隆、梅屋潔、ドーア根理子 他、風響社、森羅万象のささやき - 民俗宗教研究の諸相 -、2015、1000(103-121)

岡橋秀典、澤宗則、小田尚也、岡田亜弥、南埜猛、石上悦朗、日野正輝、宇根義己、友澤和夫、鍬塚賢太郎、由井義通、岩谷彩子、森日出樹、三宅博之、佐々木宏、土屋純、針塚瑞樹、荒木一視、東京大学出版会、現代インド 4 台頭する新経済空間、2015、344(249-272)

三尾稔、杉本良男、中谷純江、常田夕美子、中谷哲弥、高田峰夫、松川恭子、竹村嘉晃、杉本星子、山下博司、山根聡、サガヤラージ アントニサーミ、南真木人、松尾瑞穂、上羽陽子、宮本万里、五十嵐理奈、池亀彩、東京大学出版会、現代インド 6 環流するインドの文化と宗教、2015、368(129-152、159-179、185-188)

竹村嘉晃、風響社、神霊を生きること、その世界 南インド・ケララ社会における「不可触民」の芸能民族誌、2015、411  
河合洋尚、椿原敦子、土井清美、辻本香

子、里見龍樹、安田慎、岩田京子、小西公大、石村智、大西秀之、小林誠、時潮社、景観人類学 身体・政治・マテリアリティ、2016、371 (227-248)

⑩ 齊藤綾子、金仲燮、吉村智博、アリエラ・グロス、タカシ・フジタニ、岩谷彩子、関口由彦、竹沢泰子、東京大学出版会、人種神話を解体する 1 可視性と不可視性のはざま、2016、296 (189-222)

小西公大、秋山裕之、小西公大、遠藤 仁、杉本 浄、中村香子、孫暁剛、岩野祥子、宇田川俊之、栗山雅夫、吉崎 伸、澤田結基、内田昂司、宮本道人、宮本隆史、松本 篤、岩谷洋史、古今書院、フィールド写真術、2016、250(22-42、43-46、47-59、102-104、133-135 他)

秋津元輝、平井芽阿里、中田英樹、川端浩平、越智正樹、柴田 悠、中山大将、平田知久、渡邊拓也、芦田裕介、山本達也、京都大学学術出版会、せめぎ合う親密と公共 中間圏というアリーナ、2016、326 (263 287)

Minoru Mio, Abhijit Dasgupta, Akio Tanabe, Ayako Iwatani, Kazuya Nakamizo, Anderson H. M. Jeremiah, Kenta Funahashi, Rita Banerjee, Makiko Kimura, Michael Heneise, Arko Longkumer, Rethinking Social Exclusion in India: Castes, Communities and the State, Routledge, 2017, 174 (30-52)

杉本良男、小西公大、杉本浄、杉本星子、竹村嘉晃、松尾瑞穂、松川恭子、三尾稔、石坂晋也、井田克征、岩谷彩子、宇根義己、小磯千尋、寺田吉孝、豊山亜希、八木祐子、山本達也、飯田玲子、小尾淳、古賀万由里 他、丸善出版、インド文化事典、2018、770 (12-13、42-43、50-51、74-75、140-141、156 他)

Pallabi Chakravorty, Nilanjana Gupta, Scott Kugle, Yoshiaki Takemura, Nandini Sikand, Shruti Ghosh, Veena Basavarajiah, Arshiya Sethi, Indrani Dasgupta, Pika Ghosh, Jean-Frederic Chevallier, Ameera Nimjee, Prarthana Purkayastha et. al., Routledge, Dance Matters Too: Memories, Markets, Identities, 2018, 322 (36-48)

丸山淳子、木村真希子、深山直子、清水昭俊、上村英明、石垣直、山本達也、水谷裕佳、アンエリス・ルアレン、齋藤剛、久保田亮、ミカエラ・ペリカン、小西公大、高橋絵里香、中田英樹、八塚春名、山内由理子、昭和堂、先住民からみる現代世界 わたたちのあたりまえに挑む、2018、280 (118-120、195-213)

古賀万由里、明石書店、南インドの芸能的儀礼をめぐる民族誌 生成する神話と儀礼、2018年、339

〔その他〕

ホームページ等

<http://www.konan-u.ac.jp/hp/sgimpa/index.html>

## 6. 研究組織

### (1) 研究代表者

松川 恭子 (MATSUKAWA, Kyoko)  
甲南大学・文学部・教授  
研究者番号：00379223

### (2) 研究分担者

飯田 玲子 (IIDA, Reiko)  
京都大学・アジア・アフリカ地域研究研究科・特定助教  
研究者番号：10757587

岩谷 彩子 (IWATANI, Ayako)  
京都大学・地球環境学学・准教授  
研究者番号：90469205

小尾 淳 (OBI, Jun)  
大東文化大学・国際関係学部・助教  
研究者番号：50759628

古賀 万由里 (KOGA, Mayuri)  
開智国際大学・国際教養学部・講師  
研究者番号：20782345

小西 公大 (KONISHI, Kodai)  
東京学芸大学・教育学部・准教授  
研究者番号：30609996

竹村 嘉晃 (TAKEMURA, Yoshiaki)  
国立民族学博物館・南アジア地域研究国立民族学博物館拠点・特任助教  
研究者番号：80517045

山本 達也 (YAMAMOTO, Tatsuya)  
静岡大学・人文社会科学部・准教授  
研究者番号：70598656